

数物フロンティア・リーディング大学院



Leading Graduate Course for Frontiers of Mathematical Sciences and Physics (FMSP)

既存の分野にとらわれず広い視野で数学力を発揮できる博士人材の育成を目的とします。数学と諸科学に対してグローバルな視点を持ち、高度な数学を創成、展開しうる人材および、最先端の数学を使いこなし、産業・環境分野に応用して社会に貢献しうる人材を養成します。

【学位記の内容】

「数物フロンティア・リーディング大学院プログラム」の修了を付記

最先端の数学をグローバルな視点で諸科学へ展開

本プログラムは東京大学大学院数理科学研究科と理学系研究科物理学専攻、地球惑星科学専攻が連携し、カプリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)と協力して行う大学院教育プログラムです。先端数学のトレーニングと研究活動を確固たるアイデンティティとし、既存の分野にとらわれず広い視野を持ち、数学力を発揮できる博士人材の育成を目的とします。数学と諸科学に対してグローバルな視点を持ち、高度な数学を創成、展開しうる人材、および最先端の数学を使いこなし、産業・環境分野に応用して社会に貢献しうる人材を養成することをめざしています。

20世紀の半ばから、数学は抽象的な定式化が進み、さまざまな分野に応用することができるようになりました。数学が有効に使われる分野は飛躍的に広がり、数学の諸科学への展開を見据えた、横断的な視点をもった人材が多くの方で求められています。現在、数学と理論物理学の協働により、従来の分野の枠を超えた新しい研究分野が次々と生まれつつあります。このような協働が、数学と理論物理学の双方に何をもたらすかは、まだ完全に解明されておらず、次世代にとっての大きなチャレンジとなることでしょう。また、プログ



産業界からの課題について議論して成果を発表するスタディ・グループを実施しています

ラムコース生および修了生は、社会における課題や産業界からの問題に対して、先端数学によってなす新しい手法を開発して、解決に貢献しています。例えば、汚染物質の大気中と地下の拡散のモデル化、結晶や界面の成長の数学モデルなどにおいて、成果を挙げています。このように、本プログラムでは、先端数学によって、数学イノベーションを創出しうる人材を養成しています。

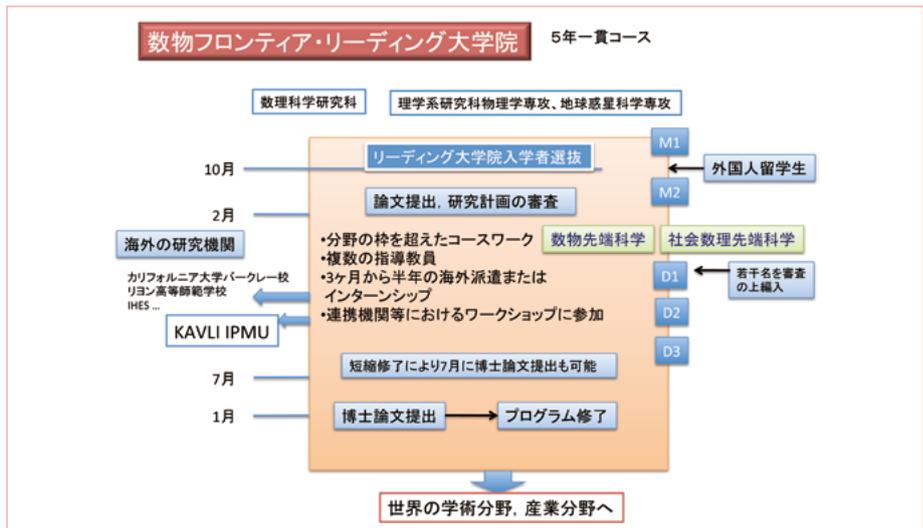
分野の枠を超えたコースワークとアクティビティ

数学と諸科学の連携の深さと広さを学ぶため、FMSPではコースワーク「数物先端科学」と「社会数理先端科学」を課します。数物先端科学では、従来の学問分野の細分化の枠を打ち破って、数学と理論物理学等の諸科学の連携の先端性と深さを学びます。社会数理先端科学では、産学官から講



Kavli IPMUでカリフォルニア大学バークレー校と共催した「幾何学と数理論理学」についてのサマースクール

師を招き、産業界から提供される多様な問題にふれる機会を設け、数学を産業数理、環境数理などの分野に応用する能力を養います。また、数学と理論物理学などの諸科学の境界で、新しく開発されつつある研究分野について学ぶチュートリアルワークショップや、産業界から提起された問題について、産業界の方々とともに取り組む、スタディ・グループを開催しています。



海外機関への派遣で国際的競争力の向上を目指し、分野を超えたコースワークで数学と諸科学の連携の深さと広さを学びます

お問い合わせ先: 03-5465-7001 ホームページ: <http://fmssp.ms.u-tokyo.ac.jp>

DATA

【学生募集人数】24名/年
 【留学生・社会人の割合】9%・0%
 【参画研究科・専攻等】2研究科・3専攻
 (数理科学研究科) 数理科学
 (理学系研究科) 物理学、地球惑星科学

【国内外連携・協力大学等】7大学
 カリフォルニア大学バークレー校/カリフォルニア工科大学/リヨン高等師範学校/エコールポリテクニク/フランス高等科学研究所/韓国高等科学院/ロシア科学アカデミーステクロフ研究所
 【連携・協力企業等】6社
 新日鐵住金/キャノン/花王/NTT/BNPパリバ/みずほフィナンシャルグループ

熱帯病・新興感染症制御 グローバルリーダー育成プログラム



Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases

本プログラムは、本学のグローバルな熱帯病及び新興感染症研究基盤を基に、熱帯に蔓延する感染症および国際的に脅威となる新興感染症の幅広い知識と技術、グローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と疾病制御の実践においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成・輩出します。

【学位記の内容】

学位記に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」の修了を付記

リーダーシップを持ち迅速な 対応を主導する国際的人材の育成

アジア・アフリカを中心とする熱帯地域には世界人口の8割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱といった熱帯特有の感染症が多発しています。発展途上国が多くを占めるこれらの地域では自然開発、人口増加、都市化が進む一方、地球規模でのヒト・モノの移動が活発化しています。こうした中、熱帯病・新興感染症のアウトブレイクと伝播は発展途上国だけの問題にとどまらず、今や先進諸国においても安全・安心な生活を脅かす重大な要因となっています。重症急性呼吸器症候群(SARS)の出現と流行(2002)、鳥インフルエンザH5N1のヒト感染の拡大(2003)、新型インフルエンザH1N1(2009)のパンデミック、西アフリカでのエボラ出血熱のアウトブレイク(2014)は記憶に新しく、また日本国内では2014年にデング熱が発生しました。これらの熱帯病・新興感染症対策には、利用可能なリソース(機材、人材、資金等)を動員し、正確な科学的根拠に基づき効果的な対応を主導できる優れたリーダーシップを備えた国際的人材の充実が急務です。

本プログラムは、そのようなリーダーシップを発揮できる人材を育成するため、4年間を通じた英語によるコミュニケーションスキルの一貫教育を行い、分野別の専門教育に加え、本学が有するケニアとベトナムの教

海外研修: 高度に危険と分類される微生物を取り扱う海外協力機関施設でのトレーニングも可能

育・研究拠点とフィールド、WHO等の国際機関、海外の協力教育研究施設、NGO等において実地研修を含む分野横断的なカリキュラムによる実践的教育を行います。これらにより、国際的に通用するコミュニケーション能力を身に付け、感染症危機対応にも知識を持つ人材を育成し、日本および世界の「平和で安全・安心な生活を保障する人間社会の構築」に貢献します。

海外研修・インターンシップでの専門性の追求とその支援

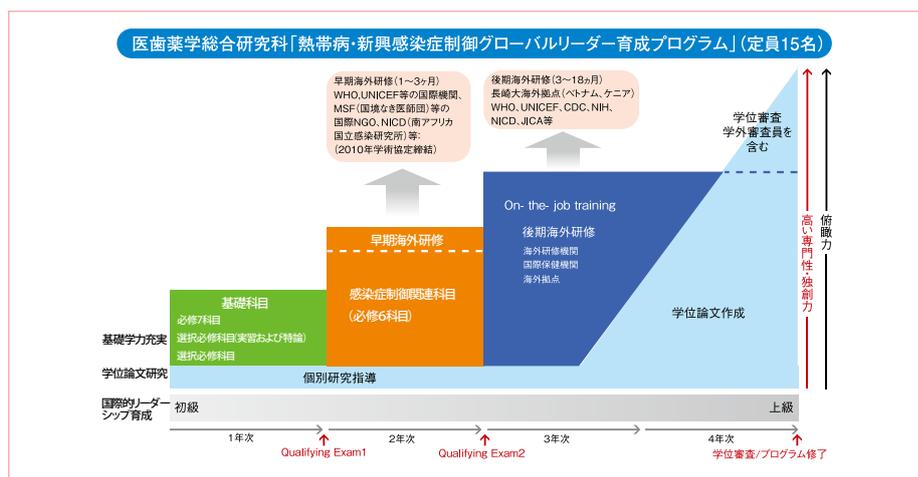
2年次にWHOなどの国際機関及び本学海外拠点や国境なき医師団等の国際NGOへ学生を短期派遣し研修を実施します。学生が意思決定から対策実施までの様々なレベルでの国際感染症対策・危機管理の実践および関連する研究を見ることにより、熱帯病・新興感染症対策と感染症危機管理をグローバルな視点から俯瞰することの重要性を理解し、学生自身のキャリアパスについて早期に考えることを目的として実施し



「世界モスクートデー」: 学生による、長崎市内の小中学生を対象とした蚊についてのイベントを開催

ます。また、3・4年次では、学位論文研究を担当する教員の指導のもと研究テーマに特化した中長期の国際共同研究・インターンシップを実施し、当該分野の専門性を深めます。

一方、優秀な学生に対して、学費および生活費に相当する奨励金を付与する等、学修研究に専念できる環境を提供し、海外研修時の旅費の支援も行います。



グローバルな環境で活躍できる専門性と国際性を身に付けた熱帯病・新興感染症制御に資する専門家を育成します

DATA

- 【学生募集人数】15名/年
- 【留学生・社会人の割合】75%・0%
- 【参画研究科・専攻等】1研究科・1専攻
(大学院医歯薬学総合研究科)
新興感染症病態制御学系専攻

お問い合わせ先: 095-819-7161 ホームページ: <http://www.tecd.prj.nagasaki-u.ac.jp/>

- 【国内外連携・協力大学等】24大学・機関
長崎大学ケニア研究拠点/長崎大学ベトナム研究拠点/世界保健機関/ベトナム衛生疫学研究所/南アフリカ国立感染症研究所/セントルークス医療センター/サンラザロ病院医療センター/フィリピン大学ディリマン校/フィリピン大学ピサヤ校/マヒドン大学/タマサート大学/チェンマイ大学/ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院/リバプール大学熱帯医学学校/インド防衛医学研究所/ケニア中央医学研究所/ナイロビ大学/アイルラ

- ンガ大学熱帯病研究所/江蘇省血吸虫病防治研究所/タイ王国保健省医科学局/シンガポール国立大学/アントワープ熱帯医学研究所/米国立衛生研究所ロッキーマウンテンラボラトリー/フィゲイラ教授記念母子保健研究所

グローバル秩序変容時代の リーダー養成プログラム



Advanced Program for Global Leaders in the Changing World

幅広い視野と深い洞察に基づく大局観、具体的な政策課題に取り組む課題分析能力、国際的な交渉・対話ができるコミュニケーション能力を涵養することにより、他分野を架橋して新しい秩序形成に指導的役割を果たす Leader of Leaders を育成

【学位記の内容】

Ph.D. in Advanced Policy Studies”の学位を授与し、学位記に“GRIPS Global Governance Program”の修了を付記

現代世界の諸課題を解決する 能力を持つトップリーダーを養成

グローバル化の進展は、世界の秩序を大きく変えました。今日、世界の一角で起こったことはたちまち世界中に波及します。新興諸国は、急激な経済成長に伴い、意思決定に及ぼす影響力は拡大しているにもかかわらず、まだ世界をリードする意思も力もありません。一方で、新興諸国の台頭によるガバナンスシステムの変化により、先進国は世界をリードする力を失っています。全体的な意思決定が進まず、今までのやり方では解決できない、困難な諸問題が噴出しています。

このような状況を打破するためには、多くの分野の専門家を束ねる能力を持つリーダーたち、細切れの断片的な知識ではない、より深い教養に支えられ、専門分野の壁を越え、その間の溝に橋を架ける能力や広い視野を持ち、大局的に判断する能力を持つ、リーダーたちのリーダーが必要ではないか、と考えました。そして、そのような人材を育てるためには、専門性の高さや広さだけでなく、いわば奥行きが重要と考え、これまで日本では重視されてこなかった歴史や教養を基礎に据え、学生の「物の見方 (perspective)」を徹底的に鍛え上げるプログラムを開発しました。



経済界等のトップリーダーを講師に迎え、講義・セミナーを行っています

Leader of Leaders を 育てるカリキュラム

(1) リーダーとしての基本的素養

複雑化するグローバル社会の中で、国家・国際機関・経済界など様々な場面において、トップリーダーとして深い思慮に基づき、適切な判断・決断を行っていくためには、個別具体的な問題・課題を大きな枠組みの中で理解し、問題の根源を把握する能力が必要です。そこで歴史を基礎科目とし、現在世界の直面する諸課題を、マクロ的な文脈の中で把握する大局観を涵養します。また、国内外の政・産・官・学等から講師を招き、自らの経験をもとに講義してもらい、そこから基本的素養や様々な物の見方を学びます。

(2) 個別政策課題についての深い知見と分析能力

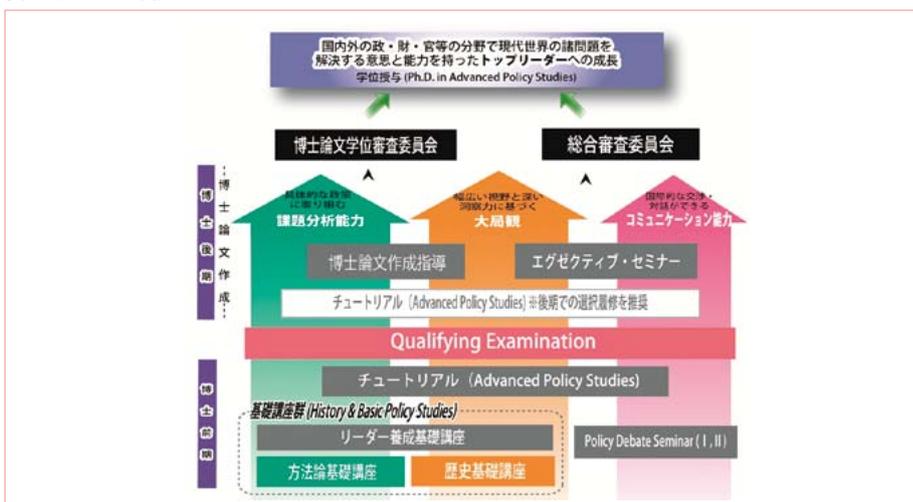
現在直面する諸課題に対処するには、個別政策課題についての深い知見と分析能力



日本人学生と留学生との間で活発な議論が行われます

が必要です。そこで政治、経済、国際関係、科学技術イノベーション、行政組織運営など方法論に関する基礎講座を履修させ、こうした課題についての基本的知見を習得させます。その上で、グローバル・先進国・新興国・途上国の4クラスター別チュートリアルで、各クラスター固有の政策課題等について集中的な議論を行うことにより、深い知見と分析能力を身につけます。

学位プログラムの概要



世界のトップリーダーに必要な課題分析能力、大局観、コミュニケーション能力を5年間で徹底的に鍛えます

DATA

- [学生募集人数] 12名/年
- [留学生・社会人の割合] 80%・95%
- [参画研究科・専攻等] 1研究科・1専攻 (政策研究科) 政策

お問い合わせ先: 03-6439-6045 ホームページ: <http://www.grips.ac.jp/g-cube/jp>

ファイバールネッサンスを 先導するグローバルリーダーの養成



Global Leader Program for Fiber Renaissance

次の能力を兼ね備えた人材を養成します。①繊維・ファイバーに関する専門知識・応用力②人類社会の諸課題とファイバー技術を結びつける俯瞰力③新しい価値を創出できる能力④基礎研究から応用研究、製品化・事業化研究までを繋ぐ能力⑤先導的なプロジェクトマネジメント能力

【学位記の内容】

博士号学位記に「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム」の修了を付記

ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成

新しい繊維産業は、重要なマテリアル産業として社会の様々な問題解決に貢献できる可能性を秘めています。すでに、その適用分野は、輸送体、宇宙・航空、エネルギー、光通信、建築、土木、環境、産業用繊維、農業、医学、健康、防護服、スポーツ、アパレルなどあらゆる分野に及んでいます。ファイバー工学は、今後、ますます人類社会を取り巻く数多くの難題を解決するために重要な役割を果たしていきましょう。今まさに繊維の世界は、「ファイバールネッサンス」の真ただ中にあります。

私たちは、産業界で活躍するグローバルリーダーを養成します。

切磋琢磨する環境と実践教育

あらゆる産業の基盤技術となるファイバー工学。私たちのプログラムでは、繊維の幅広い知識を持つ専門人の養成を目標としています。

博士前期課程の2年間は、学生居室を用意し、メンター教員、若手研究者、海外招へい研究者と一緒に教育・研究を進める環境を提供します。また、年1回の合宿(海外大学との合同ワークショップを含む)、研究室ローテーションなどにより、チームワーキングスキルを養成し、幅広い経験を身につけます。

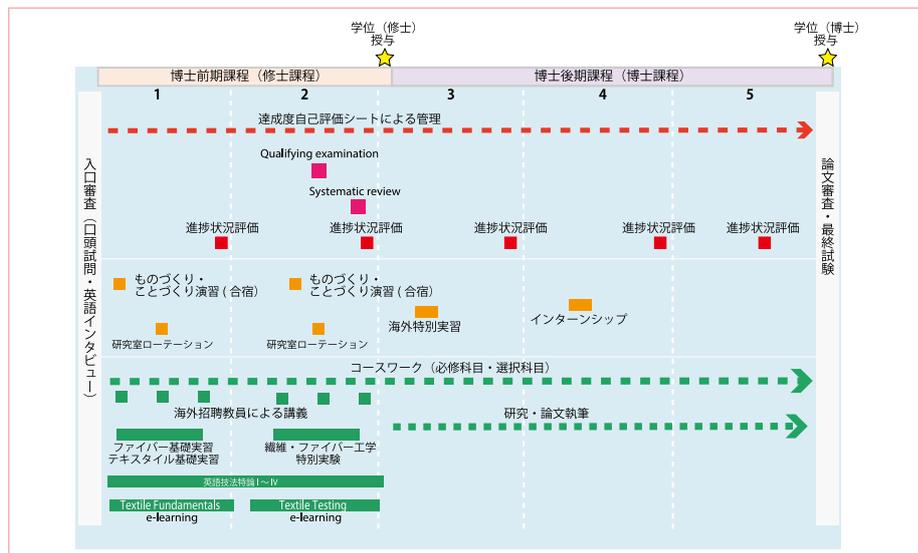
さらに、後期課程の3年間では、キャンパス内に設置したパイロットファクトリー(ファイバードイノベーション・インキュベーター施設)内での実習、企業現場での学習、企業とのプロジェクト研究、企業への長期インターンシップ(海外を含む)、などを通じて実践教育を行います。



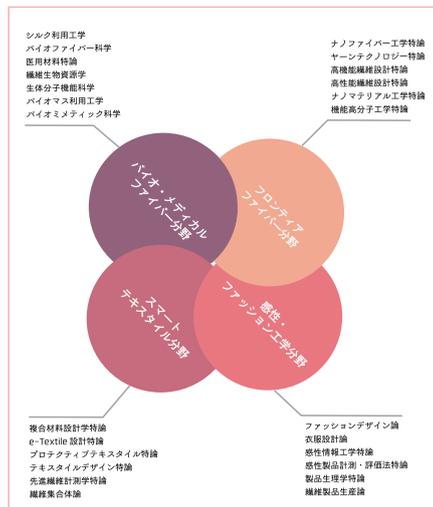
海外招へい講師による集中講義が年3回行われています

また英語教育にも力を入れており、独自で開発した教育システムを使用し、週6時間のネイティブスピーカーによるディスカッション形式の講義を行っています。

学生の入学から修了までの流れ



繊維・ファイバーに関する幅広い分野を学び、かつ英語力、実践力、人間力を養う濃密なカリキュラムが組まれています



4つの分野のコースワーク

DATA

お問い合わせ先: 0268-21-5597 ホームページ: <http://www.shinshu-u.ac.jp/project/leading/>

【学生募集人数】10名/年
 【留学生・社会人の割合】40%・0%
 【参画研究科・専攻等】2研究科・5専攻
 〈理工学系研究科〉繊維・感性工学専攻、機械・ロボット学専攻、化学・材料専攻、応用生物科学専攻
 〈総合工学系研究科〉生命機能・ファイバー工学専攻

【国内連携・協力大学等】国内大学4、海外大学5
 東京大学/京都大学/東京工業大学/東京農工大学/ノースカロライナ州立大学/香港理工大学/マンチェスター大学/ドレスデン工科大学/フランス国立繊維工芸工業高等学院(ENSAIT)

【連携・協力企業等】
 中央省庁1、研究・開発機関1、団体1、協会4、学会1
 経済産業省製造産業局繊維課/宇宙航空研究開発機構/日本化学繊維協会/炭素繊維協会/日本不織布協会/日本染色協会/日本繊維技術士センター/繊維学会

アジア非感染性疾患 (NCD) 超克プロジェクト



Leading Graduate Program for Reducing the Burden of Non-Communicable Disease (NCD) in the Asian Pacific Region

NCDに関する医学的知識、疫学方法論・生物統計学の高度な技術、アジアの公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備え、産学官を横断する人的ネットワークを持つバランスのとれたNCD対策の専門家を育成します。

【学位記の内容】

博士号学位記に「アジア非感染性疾患 (NCD) 超克プロジェクト 修了」を付記

アジア非感染性疾患 (NCD) 超克リーダーの育成

非感染性疾患 (Non-Communicable Disease、以下NCD) は21世紀の健康問題の核心的課題となっています。国際連合の現事務局長も「NCDの克服こそが国際連合の使命」と位置付け、国連NCDサミットを開催するなど、各国政府関係者および学術機関との連携を図っています。NCDはがん、脳心血管疾患、およびその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な健康問題となっており、アジア新興国における健康問題の解決と健康寿命の延伸を実現するための「アジアNCD超克リーダー」の育成が必要となっています。

滋賀医科大学は「アジアNCD超克プロジェクト」として、次代のNCD対策リーダーの育成を目指す大学院特別教育プログラムを実施しています。このプログラムでは、NCDに関する医学的知識、疫学方法論・生物統計学の高度な技術、アジアの公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備え、産学官を横断する人的ネットワークをもつバランスのとれたリーダーを養成します。こ

れにより、国内外の産学官の広い分野においてアジアのトップリーダーとして活躍するNCD対策の専門家を育成します。

専門性を育む特別教育コース

単科医科大学のもつ機動性を活かし、NCD超克を中心課題とした大学院教育システムの再構築を行います。大学院に設置される3コースのうちの1コースである先端医学研究者コースに「アジアNCD超克プロジェクト」を新設し、学内の教育資源、研究資源を重点的に投入して、全学的な動員体制のもとで、個々人のもつ多様性 (国際性・倫理観) に合わせた柔軟な大学院教育を実施しています。

また、海外で活躍する外国人教員を積極的に雇用し、英語を中心とする教育を推進しています。更にはアジアの公衆衛生現場でのフィールドワーク、民間企業や保健医

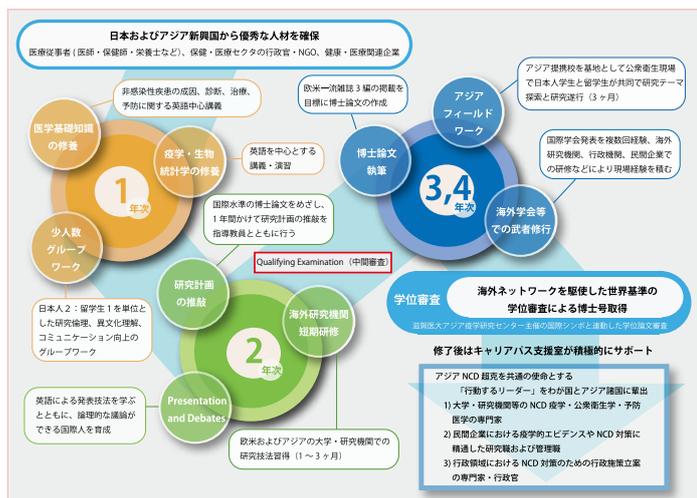


統計学ハンズオンセミナーでは仮想データを用いて統計解析ソフト (SAS) で実際に解析します

療行政機関、国際機関でのインターンシップ、海外大学での研究参加などを必須単位とし、現場で活躍する力を養い、海外学会等での武者修行で現場経験を積みます。

このように、英語コミュニケーション能力、国際的な場で討論する能力等、国際センスをもって行動するアジアのNCD対策リーダーとしての資質を修得するための学修環境が整っているのが本プログラムの特色です。

特別教育コースの概要



長年蓄積された疫学データベース、国内/国際共同研究・アジア提携校の人的ネットワークを最大限に活用した教育システム



国内唯一のNCD疫学の国際教育研究拠点「アジア疫学研究センター」が設置されています

DATA

【学生募集人数】9名/年
 【留学生・社会人の割合】53%・13%
 【参画研究科・専攻等】1研究科・1専攻
 (医学系研究科) 医学専攻

お問い合わせ先: 077-548-3657 ホームページ: <https://cera.shiga-med.ac.jp/ncdlead/>

【国内外連携・協力大学等】8大学
 バージニア大学/インペリアル・カレッジ・ロンドン/シドニー大学/ハワイ大学/北京大学/ピッツバーグ大学/ドレクセル大学/ジョンズ・ホプキンス大学

【連携・協力企業等】
 企業2、独法1、研究所2、行政機関1
 オムロン/グラクソ・スミスクライン/国立健康・栄養研究所・国際産学連携センター/バン格拉デシュ国立心臓財団研究所/愛知県がんセンター研究所/滋賀県

霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院



Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science

霊長類学を基盤に、大型の絶滅危惧種を対象にした「ワイルドライフサイエンス」という新興の学問分野が確立されつつあります。フィールドワークを礎として、人間のこころ・からだ・くらし・ゲノムを包括的に理解しつつ、「地球社会の調和ある共存」をめざして学問と実践をつなぐグローバルリーダーを養成します。

【学位記の内容】

修了者には博士号学位記に「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」の修了を付記

京都大学ならではの「オンリーワン」「フィールドワーク」

①国際機関NGO等で働く絶滅危惧種保全の専門家：日本は国際連合の主要なドナー国ですが、その職員数は著しく少ないです。国連や関連機関・NGOで働く、外国語に堪能で発信能力に優れた人材を養成する必要があります。これまでに海外に多数の野外調査基地をもち、日独米英仏伊の先進6か国連携体制を確立し、生息地の主要研究機関とも覚書を通じた連携体制を構築してきました。ワイルドライフサイエンスの研究能力を持ち、牽引力のある国際的実践者としての人材を育成します。

②博物館・動物園・水族館等におけるキュレーター：動物園や水族館は、法令上は博物館等みなし施設です。欧米ではキュレーター＝「博士学芸員」の職が確立していて、研究と教育を両立させつつ園館の運営等に深く関わっています。しかし日本では、野生動物を対象にしたフィールドワークを基盤に、人間とそれ以外の動物との調和ある共存について学問と実践を統合する人材がきわめて乏しいのが現状です。博士学位取得者が、博物館等での活動を通じて科学の研究成果を、専門知識を持たない人たちに伝えることができるようになります。

③一国を対象としたアウトリーチ活動を担う実践者：京都大学は、ブータンとは



海外に多数の野外調査基地をもっています。海外の研究機関と連携した研究教育をおこないます。

1957年以來の半世紀を越える縁があります。近年の相互交流では、フィールド医学を柱にした地域医療の実践から始まり、同国初の医科大学・医学部の創設に向けた貢献を実践しています。総合大学としての、文化・教育・宗教・防災・生物・農業・環境等についての広範な協力体制が必要です。長い歳月をかけて一国を対象としたアウトリーチ活動を担える、オールラウンドな指導者となる人材を育成します。

パイオニアワーク=初登頂の精神を野外研究を通じて養います

幸島の野生ニホンザル(天然記念物)の生態観察をする「幸島実習」、世界遺産の屋久島で海外の学生と英語でフィールドワークを行い、採取した試料で実験・解析をする「屋久島実習」「ゲノム実習」、妙高高原京大ヒュッテで野外生活の基礎を学ぶ



幸島観察所や熊本サンクチュアリ、PWSハウス屋久島など京大が保有する国内研究施設も充実しています

「笹ヶ峰実習」のほか、京大の国内研究施設(熊本サンクチュアリ等)や、学外連携施設(日本モンキーセンター等)を活用した多様な実習が必修です。また、生息地国や日独米英仏伊の主要研究機関で自主企画海外研修を行うことで、履修生の自発的なプランニング能力の向上を図り、出口となる保全の専門家・キュレーター・アウトリーチ活動の実践者の育成につなげます。



フィールドワークを礎に、学問と実践をつなぐグローバルリーダーの育成カリキュラム

お問い合わせ先: 075-771-4388 ホームページ: <http://www.wildlife-science.org>

DATA

- 【学生募集人数】5～10名/年
- 【留学生・社会人の割合】37%・11%
- 【参画研究科・専攻等】1研究科1専攻、1研究所、1センター(理学研究科)生物科学専攻(霊長類研究所)進化系統研究部門、社会生態研究部門、認知科学研究部門、神経科学研究部門、ゲノム細胞研究部門(野生動物研究センター)比較認知科学研究部門、動物園科学研究部門、保全生物学研究部門、人類進化科学研究部門、健康長寿科学研究部門

- 【プログラムのための新研究科・新専攻の設置の有無】検討中
- 【国内外連携・協力大学等】16機関
カリフォルニア大学サンディエゴ校/シカゴリパーク動物園/ハーバード大学/ケンブリッジ大学/エコーノルマルシュペリエール/マックスプランク進化人類学研究所/イタリア認知科学工学研究所/ブラジル国立アマゾン研究所/ギニア国立ボソウ環境研究所/ガーナ国立大学/インド科学大学/中国雲南省昆明動物研究所

- /タイ・チュランロンコン大学/マレーシア科学大学/マレーシアサバ大学/ブータン王立大学
- 【連携・協力企業等】13機関
日本モンキーセンター/京都市動物園/名古屋東山動物園/京都水族館/横浜ズーラシア/高知のいち動物園/名古屋港水族館/札幌市円山動物園/大阪市天王寺動物園/東京多摩動物公園/日本科学未来館/兵庫県立人と自然の博物館/神奈川県立生命の星・地球博物館



支援プログラム機関一覧



大学名	整理番号	採択年度	類型	プログラム名	掲載ページ
北海道大学	F01	H23	オンリーワン型	OneHealthに貢献する獣医学グローバルリーダー育成プログラム	57
	Q01	H25	複合領域型 (物質)	物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム	32
東北大学	M01	H24	複合領域型 (安全安心)	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	49
	Q02	H25	複合領域型 (物質)	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム	33
秋田大学	O01	H24	オンリーワン型	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム	63
山形大学	O02	H24	オンリーワン型	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院	64
筑波大学	C01	H23	複合領域型 (生命健康)	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	23
	R01	H25	複合領域型 (情報)	エンパワーメント情報学プログラム	38
群馬大学	F02	H23	オンリーワン型	重粒子線工学グローバルリーダー養成プログラム	58
千葉大学	O03	H24	オンリーワン型	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム	65
東京大学	B01	H23	複合領域型 (環境)	サステナビリティー学グローバルリーダー養成大学院プログラム	17
	C02	H23	複合領域型 (生命健康)	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	24
	E01	H23	複合領域型 (横断的テーマ)	フロンティアサイエンス・リーディング大学院	51
	J01	H24	複合領域型 (物質)	統合物質科学リーダー養成プログラム	29
	K01	H24	複合領域型 (情報)	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	35

大学名	整理番号	採択年度	類型	プログラム名	掲載ページ
東京大学	O04	H24	オンリーワン型	数物フロンティア・リーディング大学院	66
	P01	H25	オールラウンド型	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	15
	S01	H25	複合領域型(多文化共生社会)	多文化共生・統合人間学プログラム	45
	T01	H25	複合領域型(横断的テーマ)	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	55
東京農工大学	H01	H24	複合領域型(環境)	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設	21
東京工業大学	B02	H23	複合領域型(環境)	環境エネルギー協創教育院	18
	C03	H23	複合領域型(生命健康)	情報生命博士教育院	25
	F03	H23	オンリーワン型	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成	59
	G01	H24	オールラウンド型	グローバルリーダー教育院	13
お茶の水女子大学	T02	H25	複合領域型(横断的テーマ)	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成	56
政策研究大学院大学	U01	H25	オンリーワン型	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	68
金沢大学	L01	H24	複合領域型(多文化共生社会)	文化資源マネージャー養成プログラム	42
山梨大学	F04	H23	オンリーワン型	グリーンエネルギー変換工学	60
信州大学	U02	H25	オンリーワン型	ファイナルネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成	69
名古屋大学	B03	H23	複合領域型(環境)	グリーン自然科学国際教育研究プログラム	19
	F05	H23	オンリーワン型	法制度設計・国際的移住専門家の養成プログラム	61
	G02	H24	オールラウンド型	PhDプロフェッショナル登龍門	14
	N01	H24	複合領域型(横断的テーマ)	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム	53
	R02	H25	複合領域型(情報)	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム	39
	S02	H25	複合領域型(多文化共生社会)	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	46
豊橋技術科学大学	R03	H25	複合領域型(情報)	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成	40
滋賀医科大学	U03	H25	オンリーワン型	アジア非感染性疾患(NCD) 超克プロジェクト	70
京都大学	A01	H23	オールラウンド型	京都大学大学院思修館	10
	D01	H23	複合領域型(安全安心)	グローバル生存学大学院連携プログラム	48
	I01	H24	複合領域型(生命健康)	充実した健康長寿社会を築く統合医療開発リーダー育成プログラム	27
	K02	H24	複合領域型(情報)	デザイン学大学院連携プログラム	36
	U04	H25	オンリーワン型	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	71
大阪大学	A02	H23	オールラウンド型	超域イノベーション博士課程プログラム	11
	C04	H23	複合領域型(生命健康)	生体統御ネットワーク医学教育プログラム	26
	J02	H24	複合領域型(物質)	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム	30
	K03	H24	複合領域型(情報)	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム	37
	L02	H24	複合領域型(多文化共生社会)	未来共生イノベーター博士課程プログラム	43
広島大学	E02	H23	複合領域型(横断的テーマ)	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	52
	S03	H25	複合領域型(多文化共生社会)	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	47
九州大学	H02	H24	複合領域型(環境)	グリーンアジア国際戦略プログラム	22
	J03	H24	複合領域型(物質)	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	31
	P02	H25	オールラウンド型	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	16
長崎大学	O05	H24	オンリーワン型	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	67
熊本大学	I02	H24	複合領域型(生命健康)	グローバルな健康生命科学バイオニア養成プログラムHIGO	28
大阪府立大学*	Q03	H25	複合領域型(物質)	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム	34
兵庫県立大学	F06	H23	オンリーワン型	フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー	62
高知県立大学**	M02	H24	複合領域型(安全安心)	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	50
慶應義塾大学	A03	H23	オールラウンド型	超成熟社会発展のサイエンス	12
	B04	H23	複合領域型(環境)	グローバル環境システムリーダープログラム	20
早稲田大学	N02	H24	複合領域型(横断的テーマ)	リーディング理工学博士プログラム	54
	R04	H25	複合領域型(情報)	実体情報学博士プログラム	41
同志社大学	L03	H24	複合領域型(多文化共生社会)	グローバル・リソース・マネジメント	44

* 大阪府立大学と共同実施

** 兵庫県立大学、千葉大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学と共同実施